

# 製本のススメ

Vol. 137

だいぶ寒くなってきました。温泉やら鍋料理やらホカホカな物が恋しくなってきましたね。巷では風邪ひきの人が急増です。体調を崩したら 体をあたためて早めの就寝が鉄則！今日は 鍋焼きうどんにしようかな～

今回は**点と線は松本清張だけじゃないよ**の話し

印刷と製本 共通点も多いのですが、まったく違う箇所が一つあります。それが「針」です。印刷では針側 1 点でも見当が合っていますが 製本では難しい。それは、製本加工がガイド合わせだからです。つまり**直角を作る二辺を基準にして加工が進みます**。最初に 断裁加工では刷り本を揃えますが、この時 針側と啞え側を基準に紙揃えをしていきます。**針・啞え＝直角で有ることが必須条件！**この時点で既にお判りの方も多いと思いますが 印刷機では針一か所が合っていれば 直角に裁断されていない用紙でも同位置に印刷ができます。しかし製本機では辺で加工をする為紙の直角が出ていないと 加工位置にブレが生じ 見開き絵の不揃い等不都合な製本物が出来上がります。

そこで仕込み断裁加工では まず【印刷面と用紙の直角を出す】という手間を掛けています。**ここで裏話！**この時点で印刷部の腕前がわかります。つまり印刷が上手か下手か暗黙のうちに仕分けられているのです。 怖いですねえ

さて 実は印刷も製本も そんなに完璧ではありません。何しろ相手は紙ですから**湿気等の条件により 紙伸びが起きます。それがファンアウトですね。**印刷用紙の啞え側は圧胴の爪にしっかりと固定されていますが 啞え尻側は固定されていないので 加圧により若干ですが外側へ広がります。**紙目や湿し水の量**によっても その傾向は強く出ます**(これは印刷でも製本でも修正できません)**複製伝票の様に紙が薄い物は さらに顕著に現れますので多面付けは禁物ですA4ならば せいぜい4面付 小さい物でも8面程度に抑えたほうが良いでしょう。

あくまでも**製本加工は直角の辺で作業が進みます**。点合わせはできません。



## Tea break

11月12日に府中市美術館で紙染めから作るアルバムのワークショップのお手伝いに行ってきました。和紙を染めて それを表紙張りし 本文を折って張り合わせる御朱印帳の作り方を応用したものです。3時間の講習でしたが 参加の皆さんは一喜一憂 お天気も良くて楽しい講習会となりました。講習の様子や参加者の作品など フェイスブックに載せましたので お時間のある時にも覗きに來てください。

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本